



沼津の夜タチウオ仕掛け例

●Tackle Guide
エサ、ルアー、サーベルテンヤと、本来はそれぞれの特性に合った道具を使うのが理想だが、エサとルアーは兼用が可能。サーベルテンヤは専用ロッドもあるが、イカメタルやタイラバ用が流用でき、軽めのテンヤなら一つテンヤ用のスピニングロッドでも対応できる。

ジグを自ら回収するというミラクルに船上が沸く。



▲秀丸は初心者も大歓迎。元タチウオ漁師の小池船長が親切にサポーターしてくれる

▼左ミヨシの常連さんは前半はルアー、後半はサーベルテンヤでタチウオの引きを満喫

▼ジグの定番カラーは赤金やピンクのグロウ系



この日は左舷2人がジギング、右舷の私と船長がテンビンのエサ釣りで臨んでいた。活性も高いのか、クック、クックという小さいアタリの後、竿先を細かくシエイクしている、たちまちググンと強く引き込まれる。船長はタナの下限まで仕掛けを沈めたら、巻き上げスピッド1の超スローにセッとして置き竿釣法。沼津では定番のスタイルだが、これで面白いように掛かってくる。小1時間釣った後は、テンビンのエサ釣り、ルアーと並ぶ沼津3大釣法の一つ、サー

サーベルテンヤで快調

この日は左舷2人がジギング、右舷の私と船長がテンビンのエサ釣りで臨んでいた。活性も高いのか、クック、クックという小さいアタリの後、竿先を細かくシエイクしている、たちまちググンと強く引き込まれる。船長はタナの下限まで仕掛けを沈めたら、巻き上げスピッド1の超スローにセッとして置き竿釣法。沼津では定番のスタイルだが、これで面白いように掛かってくる。小1時間釣った後は、テンビンのエサ釣り、ルアーと並ぶ沼津3大釣法の一つ、サー

ズがいいものが多いという。この日もサーベルテンヤはエサ釣り同様順調にアタリをとらえていたが、左舷のジギング組はさっぱり。ハマると強いジギ

ベルテンヤにスイッチしても良かった。もちろん写真のバリエーションを考慮してのこと、その心遣いには感謝しかない。この小池秀幸船長、元もとタチウオの漁師だけあって、ポイントの選定は的確。そのうえ柔らかな物腰と親切でいねいな接客で、女性や家族連れから絶大な支持を得ているのもうなずける。

サーベルテンヤは、釣具店「イシグロ」が駿河湾のタチウオを対象に開発したもので、同じテンヤでも東京湾で使われているものに比べると、コンパクトで軽い。通常のエサ釣りと同じ切り身エサが使えるので、イワシなどを用意する必要がない。コンパクトとはいえ、エサとヘッド部分が一体化するため、通常のエサ釣りに比べると、釣れるタチウオもいく分サイズがいいものが多いという。

●船宿information

駿河湾沼津内港

秀丸

☎080-1595-1651

(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=夜タチウオ乗合1人1万円

(エサ、水付き)、ルアーは9000円

▶備考=予約乗合、集合時間と場所は電話確認。

五目釣りやアジ&サバ狙いのファミリーフィッシングへも



小池 秀幸船長

今後、ポイントは徐々に西へと移り、水深も浅くなっているのが例年のパターン。また、水温の低下に伴って脂の乗りも増すので、食味の点でも大いに期待できる。

釣果は指3~4.5本サイズのタチウオを船長がトップで17本、ジギングからサーベルテンヤに転向した人が15本、最後までジギングで通した人が6本、私が8本。翌日もフグに悩まされたというが、それでもトップは35本上げている。

ングだが、安定度ではやはりエサに分がある。その後、サバフグから逃れるように何度か場所移動しながら22時半ごろまで釣って沖揚がり。

釣果は指3~4.5本サイズのタチウオを船長がトップで17本、ジギングからサーベルテンヤに転向した人が15本、最後までジギングで通した人が6本、私が8本。翌日もフグに悩まされたというが、それでもトップは35本上げている。

ところが、左舷の2人がそれぞれメタルジグを投入すると、すぐに反応があったものの、一人はサバフグ、もう一人もフグだったらしく、ラインをかみ切られてしまい、巻き替えたばかりのPE数十メートルとジグをロスト。しかし30分後、フックに絡み付いたPEをたぐり上げると、さつき失くしたばかりの

知得! Tips and Tricks サンマエサはクーラーで保管

エサはサンマの切り身を使う。東京湾では禁止されているだけあって、サバなどより食いはいいという。脂が多いため身が軟らかく、エサ持ちがあまりよくないのが難点。10月中はまだ気温が高い日も多く、エサを外に出したままだとテロテロ口になってしまうこともある。面倒でもクーラーに保管し、小出しにして使うようにしましょう。



▲氷を敷いたクーラーにタチウオ、サンマエサを入れて保冷

好みで選べる多彩な釣法 沼津の夜タチウオ好期到来!

●駿河湾沼津内港発!千本浜沖

フィッシングライター 訓覇啓雄 Hiroo Kuribe

9月下旬、好期を迎えたタチウオを狙って、駿河湾沼津内港の秀丸へ。集合は15時半。指定された駐車場で待機していると、時間どおりに船長がワゴン車で到着。この車に荷物を積み込み、名簿に記入し、料金を支払ってから船着き場に向かうシステムだ。以前使用していた乗船場近

くの駐車場が利用できなくなり、6月からこのスタイルで営業している。現在の駐車場の場所はホームページで確認のこと。乗船場から離れているので、くれぐれも忘れ物には注意していただきたい。今日のお客さんは2人。そそくさと準備を整え、16時少し前に港を離れる。台風接近

中ながら、海上はナギ。わずか数分でポイントの千本浜沖に到着し、船首からアンカーが投入される。魚探やソナーで群れを追う東京湾などと違い、沼津沖ではポイントに船を固定し、沖の深みから沿岸に移動してきた群れを、のんびりと待ち受けて狙う。水深(タナ)が比較的浅く、潮もさほど速くないため、様々な釣り方で楽しめるのが当地の夜タチウオの特徴だ。初志貫徹するもよし、その日の状況や気分が途中で変更

しても構わない。流行のテンヤタチウオももちろんOK。ただし、沼津沖は中々良型主体の数釣り場といった印象が強く、ドラゴンサイズが交じる割合はあまり高くない。このため、シルエットが大きいテンヤにこだわると、アタリそのものも少なくなるのを覚悟のこと。

時刻は青物が回遊

16時過ぎに釣り開始となるが、さすがに周囲はまだ明るい。タチウオが回ってくるのは18時ごろだろう。ならば、その時間に合わせて出船すればムダがなくていいと思うかもしれない。沼津のタチウオは人気の釣り物であると同時に、重要な水産資源でもある。職漁船も多く、いいポイントを確保するには早めに出船するしかないのだ。

いつもなら、日没まで弁当を食べたり、おしゃべりしながらゆっくり過ごすのが常だが、今年はこの3キロ級のサワラや大アジが釣れているというので、最初からテンションは